



県指定無形民俗文化財 香良洲町の宮踊り

香良洲町の夏の風物詩であり、約350年の歴史を持つ「宮踊り」の季節が近づいてきた。



毎年8月13日から15日にかけて行われ、13日には小松・地家・砂原・馬場の4つの地区で「精霊踊り」が、15日には香良洲神社で「宮踊り」が奉納される。

別名「風采踊り」「かんこ踊り」と呼ばれるこの踊りは、香良洲最大のイベントでもあり、7月下旬に各地区でまつりに向けた練習が始まると、町全体が徐々に熱気を帯びてくる。

練習風景はどの地区でも「人から人へ継承していく」ことが伝統で、かつては自らも踊り手であった先輩の指導の下、歌と踊りが伝えられていく。宮踊りを止めると災いが起こるとの言い伝えもあって、第2次大戦中も中止されることなく続けられてきた。

宮踊りの当日17時30分から20分ずつずらして出発した各区の踊りの一行は、20時ごろに香良洲神社に宮入りする。



くじ引き順を決める白くじに続き、本くじで一番くじを引き当てた区から踊りが始まる。一踊り30分程の踊りが休憩も含めて三踊り。約3時間かけて一区が踊る。四区が踊り終えるのは翌朝10時ごろになり、夜を徹して踊り続けられる真夏の夜の伝統行事である。

長年の伝統と地域住民の熱意に支えられて今に伝わる宮踊り。踊り子を中心にそれを支える人々の姿。香良洲の町の情熱を、今年の夏はぜひ体感してみたい。

(「広報津」平成18年8月1日号)